

番号	41	圃場整備竣工碑		
所在地	鳥栖市下野町			
災害別	日本住血吸虫病			
目的別	記念碑	建立年	昭和52年3月	
特記事項	(参考) 石樋銘碑			



鳥栖市の南部、宝満川と筑後川の合流する付近に面した下野町に建つ圃場整備竣工碑。碑文に日本住血吸虫病について触れられている。

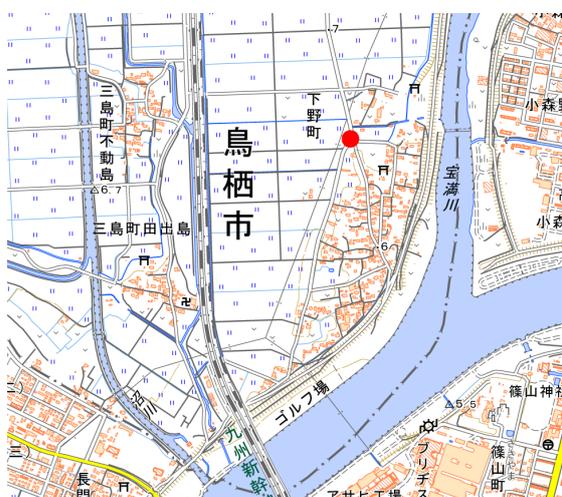
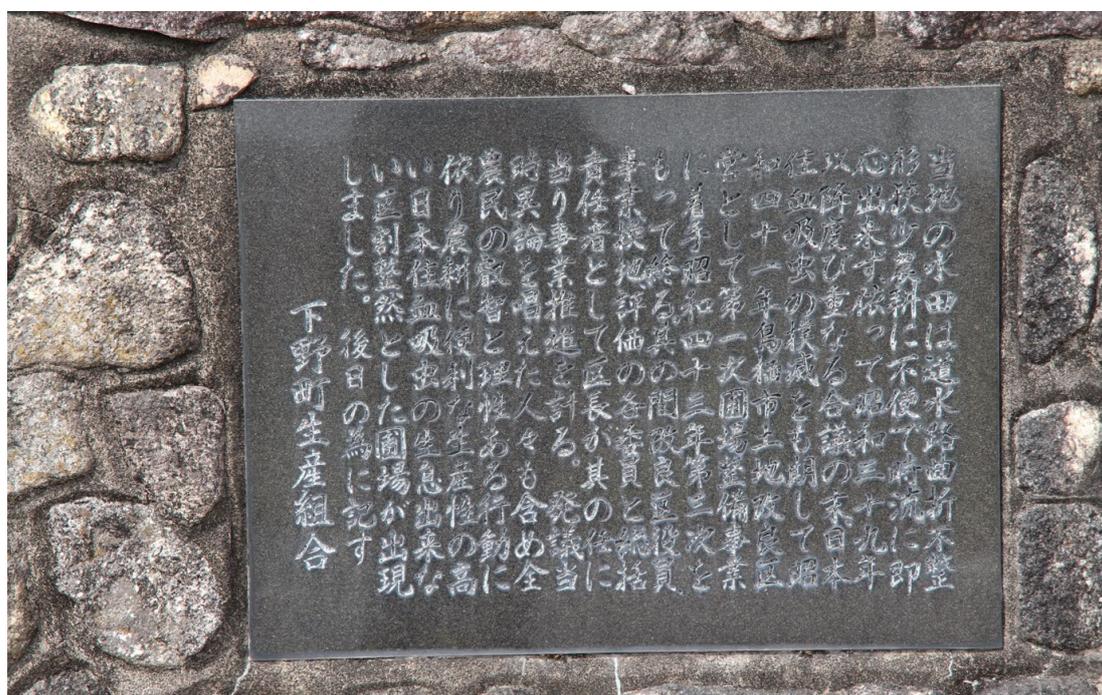
日本住血吸虫病については、初代の鳥栖保健所長で日本住血吸虫病研究所長を務められた医学博士片淵秀雄氏の著者「佐賀県の日本住血吸虫病撲滅について」(S34 発行)の中で、「明治21年8月より全月の15日まで本病の研究に従事せられました、現県立病院好生館の雇医学士堀内篤蔵氏によって当時養父郡旭村下野部落(現鳥栖市旭町下野)に奇病病状に就てと言う題目で報告せられたのが一番古い記録とされます」と記されている。

このように下野地区は古くから濃厚な有病地で、また、片淵氏は同書の中で「本病と洪水とは切っても切れぬ悪因果関係がある」と述べられているように、鳥栖市史(S48 復刻版)では、下野村は筑後川沿岸でも「非常の水害地」であったと記されている。そのため河川の改修や排水不良の改善などの水害対策や農業基盤の整備と併せて水路の3面張りコンクリート化など日本住血吸虫病対策が長年にわたる住民の悲願であったと言える。

碑文には、「当地の水田は道水路曲折不整形狭小農耕に不便で時流に即応できず依って昭和三十九年以降度々重なる合議の末、日本住血吸虫病の撲滅をも期して昭和四十一年鳥栖市土地改良区営として第一次圃場整備事業に着手昭和四十三年第三次をもって終わる。其

の間改良区役員、事業、換地、評価の各委員と総括責任者として区長が其の任に当たり事業推進を計る。発議当時異論を唱えた人々も含め全農民の叡知と理性ある行動に依り農耕に便利な生産性の高い日本住血吸虫の生息出来ない区画整然とした圃場が出現しました。後日のために記す 下野町生産組合」と記されている。

なお、地区内の老松神社には、明治10年に建立された「石樋銘碑」が建てられており、この地区は元々土地が低く排水不良であったことが記されている。また、そのため、排水用の木樋を設置したが壊れたため、それに代わる石樋を村民協力して完成させたことなどが記されているので参考までに掲載する。



国土地理院電子国土 Web



(参考) 石樋銘碑 (下野町 老松神社)



碑文は漢文で「昔時當村築設堤樋也土地皆低下而強雨一臻則自東南豐筑之谿激湍之水滔々漲溢故筑堤以防之正北山谷之污水溜滯於其間故設樋以決之然木樋則僅不期十年而破壞矣故衆人憂其切用不久代設石樋欲以傳于不朽乃一村協心謹誓産神記非常之大儉積釐毛數十年于茲至今明治十年丑四月石樋落成焉是産神擁護之所致也即泰神恩寄附祭田年々永泰祀之蓋其主事者之功績亦豈少々哉仍建此碑口其人命以胎于後世伝爾 諸永義乗」と記されている。